

四半期報告書

(第51期第2四半期)

株式会社 幸楽苑ホールディングス

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
3 【経営上の重要な契約等】	7
第3 【提出会社の状況】	8
1 【株式等の状況】	8
2 【役員の状況】	10
第4 【経理の状況】	11
1 【四半期連結財務諸表】	12
2 【その他】	19
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	20

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東北財務局長

【提出日】 2020年11月13日

【四半期会計期間】 第51期第2四半期(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

【会社名】 株式会社幸楽苑ホールディングス

【英訳名】 KOURAKUEN HOLDINGS CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 新井田 昇

【本店の所在の場所】 福島県郡山市田村町上行合字北川田2番地1

【電話番号】 024(943)3351(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 渡辺 秀夫

【最寄りの連絡場所】 福島県郡山市田村町上行合字北川田2番地1

【電話番号】 024(943)3351(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 渡辺 秀夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第50期 第2四半期 連結累計期間	第51期 第2四半期 連結累計期間	第50期
会計期間		自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高	(千円)	20,665,166	12,946,109	38,237,705
経常利益又は経常損失(△)	(千円)	1,069,497	△1,126,620	823,673
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失(△)	(千円)	522,549	△943,136	△677,408
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	567,179	△911,645	△731,921
純資産額	(千円)	5,632,975	3,033,278	3,933,523
総資産額	(千円)	17,887,530	18,296,079	15,356,366
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期(当期)純損失(△)	(円)	34.78	△62.76	△45.03
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	34.50	—	—
自己資本比率	(%)	31.49	16.58	25.61
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	872,567	770,689	918,283
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△27,105	△246,318	△778,617
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△548,091	2,666,162	△1,605,572
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	(千円)	3,405,722	4,832,560	1,642,358

回次		第50期 第2四半期 連結会計期間	第51期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失(△)	(円)	14.99	△13.41

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第51期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第50期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

(継続企業の前提に関する重要事象等)

当社グループは、2020年2月以降の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、4月に日本全国を対象に緊急事態宣言が発出されたことを受けて、店舗の休業や営業時間短縮を行った結果、4月の既存店売上高は前年同月比50.0%と減少しました。現在は前年同月比が約20%減少の水準に回復しておりますが、大幅な売上高の減少により当連結会計年度末において当期純損失を計上する見込みとなっております。

この結果、当連結会計年度において、金融機関との間で締結しているシンジケート・ローン契約に付されている財務制限条項に抵触する恐れがあり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

このような状況に対して、イートイン以外での商品提供の拡充、新規事業の立上げ及び、人件費を含めての固定費の削減等を実施するとともに、金融機関に対して業績回復に向けた施策を説明し、契約の更新及び取引の継続に向けて協議を進めております。

以上の状況により、継続企業の前提に重要な不確実性は認められないと判断しております。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状態にありますが、緊急事態宣言の解除後、経済活動再開のもとで、持ち直しの動きがみられております。

外食産業においては、営業時間の短縮や休業及び外出自粛を踏まえた来店客減少の影響で売上が減少し、厳しい経営環境が続いております。

このような経済環境の中、当社グループはイートイン中心の外食産業から総合食品企業への変革を目指し「デリバリー、テイクアウト等の中食産業での売上割合を高める施策」や「法人営業の強化」等の施策を実施しております。また「コミットメントライン契約の締結による運転資金の確保」により財務基盤の安定化を図りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は12,946百万円（前年同期比37.4%減）、営業損失1,203百万円（同営業利益942百万円）、経常損失1,126百万円（同経常利益1,069百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は943百万円（同親会社株主に帰属する四半期純利益522百万円）と減収減益となりました。

また、当第2四半期連結会計期間末のグループ店舗数は、462店舗（前年同期比60店舗減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであり、金額については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んで表示しております。

① ラーメン事業

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による休業・限定営業の影響を受けながらも、ラーメン事業においては、新たなテイクアウトメニューである「幸弁」（幸楽苑弁当）の販売、店舗メニューのテイクアウト、タクシーによる出前や自社デリバリーサービスの開始、ドライブスルーの導入及び朝食メニューの拡大導入等の施策を実施しました。

店舗展開につきましては、店舗数は、直営店416店舗（前年同期比68店舗減）となり、業態別には「幸楽苑」415店舗、「KOURAKUEN THE RAMEN CAFE」1店舗となりました。

この結果、売上高は11,511百万円（前年同期比39.4%減）となりました。

② その他の事業

その他の事業は、フランチャイズ事業（ラーメン業態のフランチャイズ展開）、その他外食事業（洋和食業態の店舗展開）を行っております。

フランチャイズ事業につきましては、店舗数は17店舗（国内12店舗、海外5店舗）となりました。その他外食事業につきましては、「いきなり！ステーキ」直営店7店舗、「焼肉ライク」直営店10店舗、「からやま」直営店7店舗、「赤から」直営店5店舗となりました。

この結果、その他の事業の売上高は1,434百万円（前年同期比14.1%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて3,088百万円増加し、5,898百万円となりました。これは、現金及び預金が3,134百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて148百万円減少し、12,397百万円となりました。これは、建物及び構築物が275百万円、リース資産が221百万円減少し、投資その他の資産「その他」に含まれる繰延税金資産が576百万円増加したことなどによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて2,939百万円増加し、18,296百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて3,228百万円増加し、9,106百万円となりました。これは、短期借入金が2,000百万円、未払費用が981百万円、流動負債「その他」に含まれる未払消費税等が489百万円増加し、店舗閉鎖損失引当金が170百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて611百万円増加し、6,156百万円となりました。これは、長期借入金が832百万円増加し、固定負債「その他」に含まれるリース債務が128百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて3,839百万円増加し、15,262百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて900百万円減少し、3,033百万円となりました。これは、利益剰余金が943百万円減少したことなどによります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ3,190百万円増加し、4,832百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と、それらの主な要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、770百万円の収入（前年同四半期は872百万円の収入）となりました。これは、税金等調整前四半期純損失の計上1,509百万円、減価償却費の計上595百万円、未払費用の増加額977百万円、未払消費税等の増加額489百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、246百万円の支出（前年同四半期は27百万円の支出）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出358百万円、敷金及び保証金の回収による収入154百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、2,666百万円の収入（前年同四半期は548百万円の支出）となりました。これは、短期借入金の増加額2,000百万円、長期借入れによる収入1,300百万円、長期借入金の返済による支出374百万円、リース債務の返済による支出270百万円等によるものであります。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更を行っております。詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（追加情報）」に記載しております。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）が事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等は次のとおりであります。

当社グループは、2018年5月11日開催の取締役会において、「当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」（以下、「会社の支配に関する基本方針」という。）に基づき、当社グループの企業価値及び株主共同の利益の確保・向上の観点から、買収防衛策の内容一部変更及び継続を目的とした「当社株式等の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）」（以下、「本対応策」という。）の継続について決議し、2018年6月19日開催の当社第48期定時株主総会における承認を得て継続しております。

① 会社の支配に関する基本方針の概要

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、当社の企業理念、当社の企業価値の源泉、当社のステークホルダーの方々との信頼関係を理解し、当社の企業価値及び株主共同の利益を中長期的に確保・向上させる者でなければならない、と考えております。

② 会社の支配に関する基本方針の実現に資する取組みの概要

当社では、当社の企業価値及び株主共同の利益を向上させるため、中期経営計画の達成に向けてグループ全社を挙げて取り組んでおります。

この中期経営計画の骨子は、次のとおりであります。

- イ 既存店舗の利益改善と新幸楽苑モデルの開発
- ロ 新幸楽苑モデルの海外展開と新業態のグループ化
- ハ 新工場の建設に伴う外販事業の拡大
- ニ 財務体質の強化
- ホ コーポレートガバナンス重視経営

また、長期数値目標値として、経常利益率10%、自己資本利益率（ROE）10%以上、自己資本比率50%以上の実現と継続を掲げ、経営効率の改善に努めてまいります。

③ 本対応策の概要

イ 本対応策の対象となる当社株式の買付

本対応策の対象となる当社株式の買付とは、特定株主グループの保有割合が20%以上となる当社株式等の買付行為、又は既に20%以上を所有する特定株主グループによる当社株式等の買増行為（以下、「大規模買付行為」といい、大規模買付行為を行うものを「大規模買付者」という。）とします。

ロ 大規模買付ルールの概要

大規模買付者は、まず当社取締役会宛に、日本語で記載された「意向表明書」を提出していただき、当社はこの意向表明書の受領後、大規模買付者から当社取締役会に対して、当社の株主の皆様の判断及び当社取締役会としての意見形成のために必要かつ十分な日本語で記載された情報（以下、「大規模買付情報」という。）の提出を求めます。

当社取締役会は、大規模買付者が当社取締役会に対し大規模買付情報の提供を完了した後、当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間を設定し、当社取締役会は独立委員会による勧告を受ける他、適宜必要に応じて外部専門家の助言を受けながら提供された大規模買付情報を十分に評価・検討し、当社取締役会としての意見を慎重にとりまとめ、開示します。

ハ 大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合

大規模買付行為に対する対抗措置は講じません。

ただし、当該大規模買付行為が当社の企業価値及び株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合には、当社取締役会は例外的に当社株主の皆様の利益を守るために適切と判断する対抗措置を講じることがあります。

ニ 大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合

当社取締役会は、当社の企業価値及び株主共同の利益を守ることを目的として、新株予約権の無償割当等、会社法その他の法令により認められる措置（以下、「対抗措置」という。）を講じ、大規模買付行為に対抗する場合があります。

④ 対抗措置の合理性及び公平性を担保するための制度及び手続

イ 独立委員会の設置

当社取締役会による恣意的な判断がなされることを防止し、その判断の客観性及び合理性を担保するために、独立委員会規程を定め、独立委員会を設置しております。

ロ 対抗措置発動の手続

対抗措置をとる場合には、独立委員会は、大規模買付情報の内容等を十分勘案した上で対抗措置の内容及びその発動の是非について当社取締役会に対して勧告を行うものとします。

ハ 対抗措置発動の停止等について

対抗措置の発動が適切ではないと当社取締役会が判断した場合には、あらためて独立委員会に諮問し、対抗措置の発動の停止又は変更などを行うことがあります。

⑤ 本対応策の有効期間

本対応策の有効期間は、2021年6月に開催予定の定時株主総会終結時までであります。

⑥ 本対応策に対する当社取締役会の判断及びその理由

イ 本対応策が会社の支配に関する基本方針に沿うものであること

当社の財務・事業方針の決定を支配する者の在り方は、当社の実態を正確に理解し、当社の企業価値及び株主共同の利益を中長期的に確保・向上させる者でなければならないという観点から、本対応策は、大規模買付者が当社の支配者として相応しい者であるか否かを判別するためのシステムとして構築しました。本対応策により、当社取締役会は、大規模買付者は、当社の正確な実態を理解しているか、当社の経営資源をどのように有効利用する方針なのか、これまでの当社とステークホルダーの関係にどのような配慮をしているか、これらを踏まえ当該大規模買付提案が当社の企業価値及び株主共同の利益の確保・向上につながるようになるのか等を検討することで当社の支配者として相応しいか否かの判別をし、そのプロセス及び結果を投資家の皆様に開示いたします。

ロ 本対応策が当社の株主の皆様の共同の利益を損なうものではないこと

本対応策は、当社の企業価値及び株主の皆様の共同の利益を確保し向上させることを目的に作成したものです。当社の支配者として相応しくないと判断される大規模買付者への対抗措置として現時点で想定しております新株予約権の無償割当も、当該大規模買付者以外の株主の皆様の利益を損なわないよう配慮して設計しております。

ハ 本対応策が当社取締役の地位の維持を目的とするものではないこと

買収防衛策を導入することは、得てして取締役（会）の保身と受取られる可能性のある意思決定事項であることは承知しております。そのため、このような疑義を生じさせないため、本対応策の効力発生は株主総会での承認を条件としておりますし、本対応策の継続又は廃止に関しましても株主総会の決定に従います。さらに、当社の支配者として相応しくないと判断される大規模買付者への対抗措置の発動プロセスにも取締役会の恣意性を排除するために外部者により構成する独立委員会のシステムを導入しております。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は16百万円であります。

(7) 生産、受注及び販売の状況

当第2四半期連結累計期間において、前年同期比で、ラーメン事業及びその他の事業における販売の実績に著しい減少がありました。その内容については、「(1)経営成績の分析」に記載しております。

3 【経営上の重要な契約等】

(株式会社日本政策投資銀行との借入契約)

当社は、新型コロナウイルス感染症の拡大等による事業への影響に備えるため、2020年8月26日開催の取締役会において、運転資金の確保及び財政基盤の安定性向上のために資金借入を実施することといたしました。

(資金借入の内容)

- | | |
|-----------|--------------|
| (1) 借入先 | 株式会社日本政策投資銀行 |
| (2) 借入金額 | 10億円 |
| (3) 借入実行日 | 2020年8月31日 |
| (4) 返済期限 | 2025年8月31日 |

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2020年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	16,774,841	16,774,841	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	16,774,841	16,774,841	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	—	16,774,841	—	2,988,273	—	2,934,681

(5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
株式会社ラニケアコーポレーション	福島県郡山市長者1-5-20	2,468	16.04
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海1-8-12	731	4.75
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	655	4.26
日東富士製粉株式会社	東京都中央区新川1-3-17	445	2.89
株式会社東邦銀行	福島県福島市大町3-25	401	2.60
株式会社日本カストディ銀行 (信託E口)	東京都中央区晴海1-8-12	345	2.24
アサヒビール株式会社	東京都墨田区吾妻橋1-23-1	337	2.19
株式会社大東銀行	福島県郡山市中町19-1	266	1.73
株式会社日本カストディ銀行 (信託口5)	東京都中央区晴海1-8-12	259	1.68
幸楽苑従業員持株会	福島県郡山市田村町金屋字川久保1-1	182	1.18
計	—	6,094	39.62

(注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式1,394千株(8.31%)があります。

2. 当社の主要株主である株式会社ニイダホールディングスは、2020年7月3日付をもって株式会社ラニケアコーポレーションに商号変更されております。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,394,100	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,341,500	153,415	同上
単元未満株式	普通株式 39,241	—	同上
発行済株式総数	16,774,841	—	—
総株主の議決権	—	153,415	—

- (注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」欄の普通株式には、当社が導入した「株式給付信託(J-ESOP)」の信託口が所有する226,100株及び「株式給付信託(BBT)」の信託口が所有する119,500株は含まれておりません。
2. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,300株(議決権13個)含まれております。
3. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式23株及び証券保管振替機構名義の株式45株が含まれております。

② 【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社幸楽苑ホールディングス	福島県郡山市田村町上行合 字北川田2-1	1,394,100	—	1,394,100	8.31
計	—	1,394,100	—	1,394,100	8.31

2 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
常務取締役内部監査室長	常務取締役	渡辺 秀夫	2020年7月1日
取締役広報マーケティング部長 兼通販・デリバリー事業部長 兼物流部長	取締役広報マーケティング部長 兼物流部長	星野 剛	2020年9月1日

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2020年7月1日から2020年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,697,906	4,832,560
売掛金	285,017	253,571
たな卸資産	※ 280,230	※ 286,964
その他	547,143	525,447
流動資産合計	2,810,297	5,898,542
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,324,591	4,049,092
土地	1,363,012	1,363,012
リース資産（純額）	2,220,605	1,999,287
その他（純額）	274,394	264,447
有形固定資産合計	8,182,604	7,675,841
無形固定資産	178,463	164,794
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,084,849	1,899,810
その他	2,101,531	2,658,470
貸倒引当金	△1,380	△1,380
投資その他の資産合計	4,185,000	4,556,900
固定資産合計	12,546,068	12,397,536
資産合計	15,356,366	18,296,079
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,024,167	952,492
短期借入金	—	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	748,782	842,114
未払費用	1,180,356	2,161,895
未払法人税等	109,492	108,443
店舗閉鎖損失引当金	265,438	95,417
転貸損失引当金	22,115	19,248
その他	2,527,823	2,927,061
流動負債合計	5,878,176	9,106,673
固定負債		
長期借入金	2,216,347	3,048,624
退職給付に係る負債	322,157	328,227
転貸損失引当金	54,655	46,131
資産除去債務	801,377	796,872
その他	2,150,128	1,936,270
固定負債合計	5,544,666	6,156,127
負債合計	11,422,842	15,262,800

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,988,273	2,988,273
資本剰余金	3,084,016	3,084,016
利益剰余金	440,395	△502,741
自己株式	△2,414,791	△2,403,391
株主資本合計	4,097,893	3,166,157
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	797	2,019
退職給付に係る調整累計額	△165,167	△134,898
その他の包括利益累計額合計	△164,370	△132,878
非支配株主持分	—	—
純資産合計	3,933,523	3,033,278
負債純資産合計	15,356,366	18,296,079

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	20,665,166	12,946,109
売上原価	5,643,943	3,788,524
売上総利益	15,021,223	9,157,584
販売費及び一般管理費	※1 14,078,263	※1 10,360,682
営業利益又は営業損失(△)	942,959	△1,203,098
営業外収益		
受取利息	7,542	7,988
固定資産賃貸料	264,127	264,216
その他	140,603	116,696
営業外収益合計	412,272	388,901
営業外費用		
支払利息	23,374	25,736
固定資産賃貸費用	242,483	215,025
その他	19,877	71,661
営業外費用合計	285,734	312,424
経常利益又は経常損失(△)	1,069,497	△1,126,620
特別利益		
受取保険金	—	51,434
債務免除益	—	27,345
その他	46,060	30,764
特別利益合計	46,060	109,544
特別損失		
減損損失	101,860	380,868
和解金	※2 151,500	—
その他	41,778	111,631
特別損失合計	295,138	492,500
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	820,419	△1,509,576
法人税、住民税及び事業税	178,170	23,750
法人税等調整額	119,699	△590,189
法人税等合計	297,869	△566,439
四半期純利益又は四半期純損失(△)	522,549	△943,136
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	522,549	△943,136

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	522,549	△943,136
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	98	1,222
退職給付に係る調整額	44,530	30,268
その他の包括利益合計	44,629	31,491
四半期包括利益	567,179	△911,645
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	567,179	△911,645
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	820,419	△1,509,576
減価償却費	629,562	595,919
減損損失	101,860	380,868
和解金	151,500	—
受取利息及び受取配当金	△10,165	△10,513
支払利息	23,374	25,736
売上債権の増減額(△は増加)	133,418	31,445
たな卸資産の増減額(△は増加)	△30,170	△6,733
その他の資産の増減額(△は増加)	7,951	21,069
仕入債務の増減額(△は減少)	△9,746	△121,751
未払費用の増減額(△は減少)	△298,570	977,750
その他の負債の増減額(△は減少)	△141,710	63,838
未払消費税等の増減額(△は減少)	△153,607	489,959
その他	△85,256	△104,360
小計	1,138,859	833,652
利息及び配当金の受取額	8,061	9,610
利息の支払額	△23,492	△21,196
法人税等の支払額	△249,992	△26,500
その他の支出	△868	△24,877
営業活動によるキャッシュ・フロー	872,567	770,689
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△158,954	△605
定期預金の払戻による収入	106,800	55,642
有形固定資産の取得による支出	△187,115	△358,702
敷金及び保証金の差入による支出	△9,727	△1,190
敷金及び保証金の回収による収入	53,287	154,623
保険積立金の積立による支出	△28,644	△28,644
保険積立金の解約による収入	198,051	—
建設協力金の回収による収入	35,901	25,073
資産除去債務の履行による支出	△10,903	△87,838
その他	△25,801	△4,677
投資活動によるキャッシュ・フロー	△27,105	△246,318
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△285,403	△270,845
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	2,000,000
長期借入れによる収入	—	1,300,000
長期借入金の返済による支出	△374,391	△374,391
自己株式の増減額(△は増加)	261,456	11,399
配当金の支払額	△149,752	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△548,091	2,666,162
現金及び現金同等物に係る換算差額	△24	△332
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	297,346	3,190,201
現金及び現金同等物の期首残高	3,108,376	1,642,358
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 3,405,722	* 4,832,560

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(追加情報)

(コロナウイルス関連)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2020年4月に日本全国を対象に緊急事態宣言が発出されたことを受け、当社グループにおいては、来店お客様数の減少、店舗の休業及び営業時間の短縮等により売上高が減少しております。5月に緊急事態宣言が解除されたものの、外出自粛や国内景気の低迷などの影響が一定期間継続することが想定されます。

新型コロナウイルス感染症の影響については、2020年4月の既存店売上高が前年同月比50.0%であったものの、7月74.5%、8月72.6%、9月77.9%と一定の回復の兆しが顕れました。一方で感染症の収束時期が明確に見込めないことから、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した、感染症による影響が2020年12月頃までに回復するとの仮定を変更し、状況は改善するものの当連結会計年度末以後も一定期間はこの状況が継続すると仮定し、繰延税金資産の回収可能性の判断や固定資産の減損損失の認識要否の判断を行っております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※ たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
商品及び製品	111,547千円	97,263千円
仕掛品	11,219	9,383
原材料及び貯蔵品	157,463	180,317
計	280,230	286,964

(四半期連結損益計算書関係)

※ 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
給与手当	6,364,115千円	4,417,841千円
退職給付費用	101,590	121,523
賃借料	2,021,023	1,630,306

※ 2 不動産取引において建物の改修工事費用に係る損害賠償請求を受けていた件についての解決金であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金	3,555,826千円	4,832,560千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△150,103	—
現金及び現金同等物	3,405,722	4,832,560

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年3月11日 取締役会	普通株式	149,752	10	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、株式給付信託(J-ESOP)によって設定される信託に対する配当金2,445千円を含めておりません。これは、本信託が保有する当社株式を自己株式として認識しているためです。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年10月25日 取締役会	普通株式	151,265	10	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、株式給付信託(J-ESOP)によって設定される信託に対する配当金2,361千円を含めておりません。これは、本信託が保有する当社株式を自己株式として認識しているためです。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの報告セグメントは「ラーメン事業」のみであり、セグメント情報の開示の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

現金及び預金、短期借入金は、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、四半期連結貸借対照表計上額に前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められますが、当第2四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失(△)	34円78銭	△62円76銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△) (千円)	522,549	△943,136
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益又は普通株式に係る親会社株主に帰属 する四半期純損失(△) (千円)	522,549	△943,136
普通株式の期中平均株式数 (株)	15,024,294	15,027,356
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	34円50銭	—
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	—	—
普通株式増加数 (株)	119,183	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半 期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度 末から重要な変動があったものの概要	—	—

- (注) 1. 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 株式給付信託(J-ESOP)によって設定される信託が所有する当社株式については、四半期連結財務諸表において自己株式として認識しております。
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前第2四半期連結累計期間242,824株、当第2四半期連結累計期間233,894株であります。
3. 株式給付信託(BBT)によって設定される信託が所有する当社株式については、前第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表において自己株式として認識しております。
1株当たり四半期純損失の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、119,500株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月13日

株式会社幸楽苑ホールディングス
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

福島事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 原 口 清 治 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐 藤 晶 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社幸楽苑ホールディングスの2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2020年7月1日から2020年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社幸楽苑ホールディングス及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	東北財務局長
【提出日】	2020年11月13日
【会社名】	株式会社幸楽苑ホールディングス
【英訳名】	KOURAKUEN HOLDINGS CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 新井田 昇
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	福島県郡山市田村町上行合字北川田2番地1
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長新井田昇は、当社の第51期第2四半期（自 2020年7月1日 至 2020年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。